

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 11月 15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674200060
法人名	社会福祉法人伸志会
事業所名	グループホームのぞみ
所在地	鹿児島県薩摩川内市祁答院町藺牟田2103番地6 (電話) 0996-31-8101
自己評価作成日	平成24年11月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ静かな環境の中に、温泉の湯気が立ち上る中での生活。季節に合わせてその時々行事食を提供し季節感を味わって頂けるように、らっきょう漬け・梅干し作り・干し大根作り・ちまき作り・干し柿作り等行って、週1回クッキングを設け献立を決め買い物をして、皆さんと一緒に調理を行っている。

毎日の家事についても、野菜切り・盛り付けと、皆で楽しくその人に出来る事をお願いしている。掃除等も掃きだしの出来る方、掃除機で出来る方と分けてお願いしている。又、洗濯物は自分で出来るだけたんで頂き、片付けはお手伝いしたりしている。

季節の野菜植え等も、皆で出来る方には種まきなどしてもらい、楽しみながら行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ 比較的交通量の多い道路に面しているが、周囲は田畑風景が広がり自然豊かな環境の中にあるホームである。隣接する協力医療機関や特別養護老人ホームとの連携が十分に図られており利用者・家族の安心につながっている。

○ 管理者が職員の意見や提案を、毎月の会議や日常の業務の中で話しやすい雰囲気作り努めて収集し、職員の良好なチームワークの下で具体的に業務改善やサービスの質向上につなげるように取り組んでいる。

○ 利用者やご家族の思いや意見を日常的に把握できるように努め、非常にきめ細かく項目設定された「個人録」や日々の連絡帳で情報の共有を図り、必要な対応は速やかに話し合いを持って検討するとともに、利用者の馴染みの関係の継続や日常のケアに具体的に反映するしくみが築かれている。

○ 介護計画は、本人・家族の意向や希望、関係者からの情報を基に職員全員で意見交換して、きめ細かなわかりやすい記述のものを作成している。日々のケアの経過記録に加えて細かく項目設定された「日常生活記録」に月ごとの経過が詳しく記録され、これらを基に介護計画の見直し・修正が適切に行なわれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングの見やすい所に提示し、全員で共有し実践出来るよう努めている。	職員全員で作成した事業所理念と共に、年度の初めに理念を補足する「年間キャッチフレーズ」も作成して、地域に溶け込んだ暮らしと「思いやる心」を大切に日々のケアに取り組んでいる。また、毎月の職員会議やケア会議で理念の意義を振り返り、より良いケアの実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが、地域の方のボランティアや祭りなどの奉納や特養の行事に参加させてもらい交流出来ている。	法人で開催する夏祭りや花見・運動会・敬老会等の行事に地域の方々に参加して頂くと共に、中学生の体験学習や高校生の実習の受入、定期的な地域のボランティアや七夕の際の保育園児との交流もあり、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。日常的には隣接する協力病院を訪れる地域の方々と話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験やボランティアなどに見えた方へ支援の方法の説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進委員会を開催し、意見交換を行いサービスの向上に努めて、この時地域の方々の様子なども伺うようにしている。	会議は家族や地域住民、地域包括支援センターや市役所の職員等関係者が参加して定期的に開催されている。地域の行事等の情報を得ると共に、事業所の現況報告や行事・問題点等について活発な意見交換が行われ、それによる提案や意見を具体的にサービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケアマネが市町村に出掛けた時や推進会議等で意見を伝えている。	市担当者には運営推進会議に出席して頂くと共に、入退所や認定更新の手続き等の際に、電話も含めて相談に対応して頂いている。また「介護サービス事業所連絡会」に出席して意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないケアを職員全員に認識しその時に応じて皆でケアの工夫について検討を行っている。夜間は防犯上玄関に施錠を行っている。	言葉による拘束の排除を含む身体拘束については、毎月の職員会議やケア会議で繰り返し議論すると共に、法人全体の研修も計画的に行なわれ、十分な理解への取り組みと、安全確保や自由な暮らしを支援するケアへの反映がなされている。日中は居室や玄関の施錠は行わず、関連施設や病院の職員とも連携して見守りや声かけを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、グループホーム協会などの研修へ参加学習し、虐待のないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修、その他の研修で勉強した事はあるが、活用の機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	園長・管理者・事務担当により、その都度文章を持って家族への説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケア会議・職員会議などで知らせ、園長・事務長など意見をもらい運営に反映出来るように心がけている。	利用者の思いや意見は日常会話や所作の見守りなどで、ご家族とは訪問時の対話や面会簿を通じて意見を頂いている。また、年1回は家族会のあとに食事会も開き話し合う機会を設けている。日常の話し合いや会議を通じて全職員が共有を図り、サービスに具体的に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会・ケア会議で意見や提案を聴く機会を設けている。	職員からの意見や提案は毎月の職員会議やケア会議で聞き取ると共に、日頃から話しやすい雰囲気作りに努めて会話を交わし、連絡帳にも自由に記入してもらっている。管理者は得られた意見や提案を、例えば床材や椅子の変更などの利用者へのサービスや業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務状況を常に把握し、個々の相談・意見や提案を聴くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の法人の研修、毎月Drの勉強会、その他の研修へ全員参加出来るよう心がけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修などの時に、他の施設の方との交流も行いサービス内容・活動等を聞いて持ち帰り、皆で検討を行ったりして、少しずつでもサービスの向上に心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員と本人・家族を訪問し、話を聞く機会を設け関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員と家族・本人を交え十分話を聞く機会を設け理解して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師や介護支援専門員と話し合い、出来るサービスは行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護ではなく、出来る事は自分でやっていただける生活をしていただけるよう支援していくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会時や電話で情報交換を密に行い、希望・要望を聞き、必要時には話し合い、一緒に支えていけるように行事参加にも積極的に声掛けを行う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや帰省は家族へお願いし、家族が遠方の方は一緒に同行したりする。	利用開始時の聞き取りやご家族の来訪時に利用前の情報を把握し、きめ細かく「個人録」に記録して支援に活用している。電話や手紙の取次ぎ、本人が希望する買い物や墓参りへの同行と共に、隣接する協力病院や居室での家族や知人・友人との交流を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事作り、後片付けなど参加していただき、関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系特養・病院を利用されている方には、訪問時声を掛けたり、家族にお会いした時などじっくり話を聞くよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にスタッフと共有し、毎朝の申し送り・ケア会議で検討し把握に努め、家族などに相談し本人の希望を重視しながら検討している。	日々の生活の中で思いや希望の把握に努めると共に、本人の暮らしに最良の対応になるように家族を交えて検討している。職員は毎日の申し送りや連絡帳で情報を共有し、日々の業務の中やケア会議で十分に意見交換して必要な対応を話し合い利用者本位の支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴などの情報を提供していただきながら、これまでのサービス利用を把握し、本人が楽しんで生活出来るよう把握に努めていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態・残存機能を把握し、個別対応を務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフとモニタリングを行い計画を作成し3ヶ月毎の見直しを行って、計画に適さないと判断した時、途中でもプランの変更を行っている。	本人・家族の意向や希望、関係者からの情報を基に職員全員で意見交換して、きめ細かなわかりやすい記述の介護計画を作成している。日々のケアの経過記録に加えて細かく項目設定された「日常生活記録」に月ごとの経過が詳しく記録され、これらを基に介護計画の見直し・修正が適切に行なわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ同士で情報を共有し、連絡帳や個人録を活用しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応し、柔軟な支援サービスが出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1カ月置きボランティアさんの訪問、レクリエーション・草取り・掃除などと定着している。又、同法人内へ地域の奉納など来園時出掛けたり、文化際なども毎年出掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診を実施し、体調不良時は随時受診を行い、本人が出掛けられない時は主治医がグループホーム訪問して下さる。	現在の利用者のかかりつけ医は同一敷地内の協力医院になっており、月2回職員同行で定期的に受診している。受診状況や必要な対応も職員・家族で情報の共有がなされ、医師の意見も担当者会議の記録やケアプランに反映されている。また、専門医の受診もかかりつけ医の紹介により適切に行なわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないため、月1回のクリニックDrの勉強会へ参加し少しは学んでいる為、職員同士で検討したり、クリニックや特養の看護師へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	いつもはクリニック受診を行い、入院の場合は協力病院へ入院となり、情報交換を密に行って早めの相談・退院も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、家族又は、主治医の紹介で専門医への入院・協力病院への入院と家族と相談しながら行い、特養への移動も検討を行う。	重度化や終末期のケアについては、入所時に家族や本人に対して、重要事項説明書を用いてホームでは直接には対応せず、協力病院等への入院や関連の特別養護老人ホームへの入所で対応していくことを説明して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を年1回程度、隣接クリニックDrの勉強会を実施して実践力を身に付けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間想定の実施を行っているが、実際の夜間の訓練は行っていない。地域との協力体制は出来ていないが特養職員・消防とは協力体制は保っている。</p>	<p>年1回は消防署の協力を得ながら、夜間想定も含む消火・避難・通報訓練等を年に2回以上実施している。訓練には隣接する関連法人の協力病院や施設等の職員も参加しており、自動通報装置やスプリンクラー等の設置、食料や必要備品等の備蓄も問題ない状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁時、食べこぼし等の時、さりげない声掛けを行い居室や人目のつかない所で着替えてもらったり、自室にバケツを用意してその中へ入れてもらうようにしている。	法人全体での研修も計画的に実施し、利用者の尊厳や権利を守るため、誇りやプライバシー確保に配慮した声かけや対応を心がけている。日常生活の中でも職員が相互に連携してきめ細かな観察や個人記録の取扱いに十分配慮して支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の希望に添うよう入浴の声掛け時本人の希望を伺ったり、クッキングなど外出する時声掛けして自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限るその人らしい日々の過ごし方に近づけていきたいと思っているが、時には職員の都合を優先してしまう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日好みの服を選んで頂き着替え、化粧品等も希望があれば購入のお手伝いをしたり、散髪・髪染めなども移動の散髪屋に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り・盛り付け・配膳などスタッフと一緒に、片付け等も交替で行って頂くよう支援している。	利用者に菜園からの野菜の収穫・下ごしらえ・配膳・下膳・後片付けなど、できることは手伝ってもらい和やかに食事できるように工夫している。また、毎週火曜日はクッキングデーとして夕食の献立を利用者と共に考え、交替で食材の買出しにも出かけている。月に1回の季節の行事食も工夫して利用者の楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の下献立を作成し一人ひとりに合った量を提供し、水分量も一人ひとり把握しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと夜間は義歯洗浄を行い、舌ケアを全員ではないが行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間・夜間両方パット使用の方数名ですが、個人のパターンを把握し自力出来ない方へは早目の声掛け支援を行っている。	排泄チェック表の活用や適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心にも十分配慮して、日中はオムツを使用しないケアに努めている。夜間は利用者個々に合わせた排泄用具等の使い分けなど工夫し、介護プランにも組み込んで適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・ヨーグルトなどで調節したり、便秘薬などもDrと相談し調節しながら予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとり希望の時間を聞いて希望の時間に入浴出来るよう心掛け、拒否された時は時間を置いて声掛けしたりする。	利用者の健康状態に配慮しながら、ゆず湯や菖蒲湯などの工夫も含めてゆったりと天然温泉を安心して楽しめるように支援している。入浴を拒否されるような場合には、時間帯の変更や言葉かけを工夫するなど気分転換に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間居室で休まれたりソファで休まれたり、状況に応じた安眠休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全てを理解してはいないが、その都度全員で調べたりDrに尋ねたりしながら、少しでも理解出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞・本読み・五目並べ・塗り絵などそれぞれの楽しみ方で気分転換に繋げている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的本人の希望には添えないが、週1回のクッキングへ交替で参加、季節の行事遠足など家族と全員参加出来るよう支援している。	利用者の健康状態や天候を見ながら、広い敷地内での散歩や外気浴・体操・菜園の手入れなどで楽しんで頂いている。また、法人の関連施設で開催される花見や夏祭り・運動会・敬老会・地域の方々の踊りなどには積極的に参加して、可能な限り楽しく交流できるように支援している。年に1回程度はご家族と一緒に一日遠足や花見も企画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて自立して持っている方は少なく、家族よりお預かりしている分が多いが、いつでも本人が必要に応じて使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があるといつでも電話していただけるようにして、本人から申し出のない方、遠方への方はスタッフが取りつき話をして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は生活感や季節感を取り入れ、トイレなど→で場所が分かるように、皆が居心地が良い空間として使用出来るようにしている。	共用空間は明るく、玄関には季節の花が置かれ、周囲の壁には職員と利用者が作成した貼り絵や壁飾り・行事の写真などが飾られ、静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。広い敷地には菜園もあり、建物の周囲は日光浴や散策ができるように通路も整備され気持ちよくくつろげる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて気の合った利用者同士話をされたり、リビング等で新聞・塗り絵など好きな事が出来る空間がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で作ったカレンダーや塗り絵などを飾り、家族の写真なども飾ったりと本人の好みにされ過ごされている。	居室は畳部屋であり、ベッドやエアコンが設置されている。利用者の身の回りのものなど使い慣れたものを持ち込んで頂き、ご家族とも意見を交わして、衛生面に配慮しながら居心地の良い環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなど分かるように文字や矢印などで表示して、自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を共有しながら、日常実践できるようにしている。年度初めにキャッチフレーズを決めそれに取り組んでいる。今年度は「思いやる心で生まれる温かい暮らし」である		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりはないが、地域の方とのつながりは、特養の行事への参加、ボランティアの受け入れ、園児との交流などがある。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の福祉体験や高校生の実習時等、GHとはどういうところか？という所から認知症の理解や接し方など話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告を行い活動に対する意見や評価をいただき、これからの活動やサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席していただき、実情を伝え、分からないことなど電話で相談したりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する知識を研修会等で学び理解し、昼間は施錠することはないが、ドアを開けられたら分かるようにベルをつけている。状況に応じて施錠をすることもあるが拘束の意味を理解し不必要な拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があると学び、虐待がないように努め、特に言葉による虐待には注意を払い自尊心を傷つけないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については機会があると学ぶようにはしているがこれまで活用がない。必要性がある場合は活用できるように支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に契約書、重要事項説明書に目を通していただき、契約時に説明を行い理解していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、日常の面会の時に意見をいただけるようにしている。面会簿に意見・要望欄を設け、気軽に書いていただけるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行なう職員会議、ケア会議の際、意見や提案をする機会があり反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得時には正職員として採用になる等の条件整備はされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修は積極的に参加するようにし、法人外の研修には、偏りなく全職員が参加できるようにし、報告をしっかりとし、全員で共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会開催の勉強会はあるが交流会とまではいかない。相互訪問や勉強会を行いサービスの質の向上に活かしたいと考えてはいるがなかなか実行できない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人との日常の何気ない会話の中から、不安や要望を聞き出し、本人が安心できるような関係づくりに努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居後しばらくは家族の方と連絡を密に取り、話をしながら信頼関係が築けるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族支援が可能な限りは家族支援で在宅での生活を勧めることもある</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>グループホームは生活の場であり、できることはやっていただけるように支援し、全て介護する一方的な立場ではない、人生の大先輩としていろいろなことを教えてもらいながら共に生活する同士として支えあえるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が希薄にならないように日常生活の理解や行事への参加等で協力をいただきながら共に支えていけるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には居室にてゆっくりと過ごしていただいたり、家族との外出や墓参り等できるように協力をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間も大切にしながらも、できるだけ関わりを持って生活できるように、いろいろな場面で相性等を把握し、良い関係作りに努め、トラブルが起こりそうな時には、スタッフが仲介役になり楽しく過ごせるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからも施設や病院で様子を伺ったり声かけをしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意思をたいせつにしながらかできるだけ意にそえるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やこれまでに関わってこられた方から、これまでの暮らしを尋ね把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様、一人ひとり、その日その日の心の変化や体の変化を見逃さないように注意を払い、現状の把握ができるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時等に現状を伝え、要望等を伺っている。また計画作成の時にはスタッフとケアのあり方を充分話し合い作成に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。職員間では個別記録の他に連絡帳や申し送り帳にて情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠くにいらっしゃる家族が来られた時、宿泊や食事の提供等を行なっている。買い物や墓参りなどの支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の地域のボランティアさんの訪問、地域で行なわれる文化祭、初市等には出かけて、地域の方との交流に繋がっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内にあるクリニックをかかりつけ医とし、適切な医療を受けられている。何かあったらすぐに受診ができるため家族も喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は勤務していない。職員間で相談し、早めの受診を心がけている。系列の特養の看護師に相談したりしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際、安心して治療ができるようにできるだけ面会をし、早期退院ができるように相談したり、関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の契約の時、GHのぞみの方針を説明し、重度化した場合には次の段階の支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応についての勉強や訓練は行なっているが、実際の時に身につけたことが慌てず実践できるかは不安がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回は行なっている。地震、水害等に備えての訓練も必要である。地域の消防団長は運営推進委員会に参加していただき、GHの現状等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損傷しないような対応や言葉かけには十分気をつけているが、なかなか難しい。馴れ合いになってしまっているところもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる機会を作ったり思いや希望を表出できるようにしているが、スタッフで決めてしまうことも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、その方のペースに合わせて、食事を食べていただいたり、居室で過ごしていただいたりしている。都合により合わせていただくこともあるが、声かけ等にて理解して下さっている。閉じこもりにならないように気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	普段の整髪にも気をつけ、1～2ヶ月に1回は散髪をしている。外出の時にはその人らしいおしゃれを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の野菜切りや盛り付けを一緒にし、食事と一緒にしている。食器洗いや片付け等もやって下さっている。週1回は夕食に食べたいメニューを決めていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事量や水分摂取量を把握し、食事量の少ない方には補助食品を利用したり、水分量の少ない方には回数を多くしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフも口腔ケアについて理解を深めながら、一人ひとりの状態に合わせて毎食後、口腔ケアの介助や声かけを行っている。夕食後は義歯洗浄をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合った声かけや尿とりパット等の使用を声かけしている。夜間のみ居室でPT使用にて排泄されている方もいらっしゃる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として10時のお茶の時にヨーグルトを食べていただいている。体を動かしたり、散歩をしたりしているがそれでも便秘の時には服薬をし排便を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉を引いてあり、温泉に入っている。希望を聞いたり、タイミングを見て声かけしたりして入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の睡眠状態により、起床を遅らせたり、昼間に休んでいただいたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時には、副作用等を説明書を見て把握し、変化がないか気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりのできることを見つけ役割を決め生活が単調にならないようにしている。TVの歌番組を楽しみにされている。散歩で気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望にそっての外出はなかなか難しいが、行事として月に1回程度は外出ができるようにしている。墓参り等家族にお願いすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持していらっしゃる方もある。使う機会は少ない。希望に応じて買い物に行き、自分で使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族に電話をして話されている。帰宅願望のある時に電話をすることで落ち着かれる方もある。手紙を書きたいと言われると葉書や切手の購入や投函の支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内温度、光の具合等とても敏感に感じられるのでとても気をつけている。生活感や季節感を感じられるよう、花を生けたり季節の壁面製作をしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ひとりになりたい時には居室に戻られる方もある。リビングにソファがあり、入居者同士でTVを見たり、会話を楽しんだりされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家にある物を持ってきて下さるようお願いし、家族と一緒に部屋作りをしていただいている。居心地よく過ごせるよう室内の衛生面には気をつけている（消臭、ダニ退治等）		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干す時腰掛けて、ハンガーに掛けてもらう事で洗濯物を干す事が安全にできるようにしている。できる範囲で掃き出し、拭き掃除をするなど自立した生活が送れるようにしている。自分の部屋が分かるように名札をつける、目印をつける等している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない